

1. 農業経営そのものに問題を抱え、転換期にあると思われる農村にあって、住居が現在どのような意識によって捉えられ、運営されているかを調査し、これからの農村の住居のあり方について研究する。

2. 都市近郊農村として長野県小県郡東部町、過疎地域農村として北安曇郡美麻村をあげ、アンケートによる意識調査、戸別のききとり調査を行う。

3. ①古い住居、少し改善した住居、新築した住居の時代別にみると、使用頻度の少ない「ざしき」はいずれの時代にもうけつがれ、いわゆる人よせなどの行事のために備えられる。これに対して「土間」は時代を新しくする毎にその用途、面積をせばめ新築住宅においては玄関土間としてしか存在しなくなって来つつある。また「個室」も時代の新しくなるにつれて意識的にとりあげられスペースの中にとり入れられて来つつある。がその配置については未だ問題があると思われる。

②住居の空間利用度は古い住居程平面利用度が高く、新しくなるにつれて上下空間利用度が増してくる。